

自分の大切な命を守るため 交通マナーをしつかり学習

市内の各小・中学校で交通安全教室を開催



自転車から降りて、横断歩道を渡る西根第一中の1年生

道路での交通マナーを学び、大切な自分の命を守ろうと市内の各小・中学校で、交通安全教室が行われました。

この教室は、4月6日から15日までの春の全国交通安全運動推進期間を中心に各学校で開催。年々増加する交通量に対応し、児童や生徒に安全な登下校と基本的な自転車の交通マナーを学んでもらおうと毎年行われています。

交通安全教室では、警察や交通指導隊の隊員が児童や生徒に指導。児童や生徒たちは、



校庭で、ジグザク走行、8の字カーブなどを走行し、自転車運転の技術向上を行う柏台小の児童たち



渋川小の1、2年生は、通学路で実践練習。左右をしつかり確認して横断歩道を安全に渡りました

ビデオを見ながら交通マナーを学び、道路の正しい歩き方などを確認しました。

小学校1、2年生は、校庭でミニ信号機などを使って、横断歩道の渡り方などを練習。普段使っている通学路へ出て、実地練習も行いました。横断歩道では、左右をよく見て、車が来ていないかを確認して、安全に渡ることができました。

小学校中学年から中学生までは、自転車運転教室を受講。校庭では、自転車の車両点検や8の字カーブを使った技術指導を実施したほか、実地練習では実際に校外に出て、正しい運転を学びました。

車を運転する人も、通学路では特に気を付けて運転しましょう。

みんなの作品

～田頭小～



6年 しみずはた ゆうや 清水畑 友哉くん

「ちよいなみつさいな」



3年 へらい まさや 戸来 雅也くん



「ムシキングシート」



5年 いわい としや 岩井 寿哉くん

「ホームランを打ったよ」



「子どもを取り巻く社会環境が厳しい今、母と子の絆を深めるには、妊娠・出産・育児の一連の支援が欠かせない」と助産師の彼女は言う。「家族や友達に囲まれた中で、妊婦が安心感を抱きながら母としての感動を体験する。妊婦のリズムに合わせて手伝うことが使命」とほほ笑んだ。「母乳で育った赤ちゃんは目の輝きが違う。抱き締めながらおっぱいをあげると親子の絆は深まる」と母乳育児の利点を挙げる。今まで千人以上の赤ちゃんを取り上げた。それでも彼女は言う「お産は何が起こるか分からない。命を預かる責任に押し潰されそうになる」と。お産は一人一人状況が違う。不安と向き合いながら日々勉強に励む。「自己研鑽」を信条にするゆえんだ。長女の有紗さんが自宅分産で子どもを産んだ。安心して笑った笑顔が彼女の背中を押す。「助産所を開業しよう。母乳育児を広めよう」。この使命は今始まったばかり。彼女は、子を産み育てるママたちの心強い味方となるだろう。

ZOOM UP

※助産所「母と子のほっとスペース」 ☎76-4066

藤原 幸子さん

●ふじわら・さちこ 仙台の看護学校、助産婦学校を卒業後、昭和49年に国立仙台病院に就職。働く傍ら、東北学院大学で英文学を学び、厚生省看護研修研究センターで看護教員の資格を得る。昭和59年、子育てのため退職。平成8年に盛岡市の黒川産婦人科医院で復職する。平成18年2月、自宅に助産所「母と子のほっとスペース」を開業。自宅分産の介助、母乳育児など子育て全般の相談を受け、訪問もする。趣味はガーデニングと近場の温泉巡り。「常に感謝を忘れずに」をモットーにする55歳。夫と次女の3人暮らし。血液型O型。大更地区。

広報クイズ No.8 5月11日号の問題

開通した八幡平 アスピーテライ ンは何キロ？

正解者の中から抽選で3人の方に500円分の図書カードをお贈りしますので、どしどしご応募ください。

◎応募方法 はがき、ファクス、メール(パソコン、携帯電話)に「答え、住所、氏名、年齢、行政区」を書いて応募してください。また、答えのほかに、広報の感想や意見などを書き添えてください。紙面づくりの参考にさせていただきます。

◎応募期限 5月22日(月) 消印有効

◎応募先 八幡平市役所「広報クイズ係」

☆はがき 〒028-7192(住所不要) ☆ファクス 75-0469

☆メール somuka@city.hachimantai.lg.jp

*メールのタイトルに必ず「広報クイズ」と入力してください。

◎第7回の正解 「152億(6,220万)円」 ◎応募者数 8人 ◎正解者数 8人

◎当選者 田村富美子さん(大更)、岩崎美代子さん(大更)、松尾コノエさん(松尾)